

# リモートセンシングを活用した調査測量について

日南町建設課

## ○リモートセンシングとは？

航空写真やレーザー測量等により、現地に立ち入ることなく土地の境界調査や面積測量を実施する。

## ○日南町における活用状況

山村基本境界調査が完了している茶屋地区の山林で、リモートセンシング調査を実施している。

## ○調査の流れ

- ・レーザー測量等により、地形や植生を反映した筆界案を作成。
- ・請負事業者が、現地に立ち入り外周の境界を確認。
- ・土地所有者が一堂に会し、筆界案や空中写真等をもとに土地境界位置を確認。
- ・閲覧、登記については従来と同様、土地所有者が完成した図面を確認する。

## ○利点

- ・現地へ出向くことなく調査を行うため、土地関係者の負担が減少する。
- ・調査、測量といった工程の大半を机上により実施するため、調査期間の短縮に繋がる。
- ・広大な面積の9割を山林が占めており、また人口減少や高齢化により、現地に足を運ぶことのできない土地所有者が増えている日南町においては、高い効果を発揮する調査方法といえる。

## ○課題

- ・リモートセンシングの活用にあたっては、地権者の事前同意が必要となる。特に、複数の地権者がいる土地の場合は、同意を得るために時間を要する。
- ・現地に調査杭を打たないため、現地で境界を目視できないことに対し、理解を求める必要がある。  
(座標データは従来同様作成するが、原則として調査杭は設置しない)
- ・地上法と比べ、測量精度が落ちる。(本来あるべき境界から、ずれる場合もある)
- ・測量結果に疑義が生じた場合、現地において調査、測量を行う場合もある。